

 <p>Zambia</p>	学校名：東村山市立東菟山小学校	● 実践教科等：社会科
	氏名：新居 名菜子	● 時間数：6時間 ● 対象生徒：6年生 ● 対象人数：33人
[担当教科：小学校全科]		

1 単元名 世界の人々とともに生きる

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)
 ザンビアで起きている問題の解決に向けて取り組んでいる人々の活動から世界の問題や国際協力について興味・関心をもつことができる。(進んで参加する態度)

写真や映像、インターネットの情報からザンビアと日本の関係について様々な角度から考え、その関係が世界中にあることを理解することができる。(多面的、総合的に考える力)

3 単元の指導について

(1)教材観

本単元では、日本や世界の人々がさまざまな形で国際交流や国際協力を行っていることや、平和な社会の実現に向けて努力していることを調べ、残されている問題にも目を向けながら、今後、国際社会の中で日本が世界に果たすべき役割について考えさせる展開になっている。教科書に掲載されている団体・日本人は、NGO団体、ユニセフ、国際連合、青年海外協力隊であるが、それ以外にも研修で取材をしたNPO団体、民間企業の国際協力も教材化して指導する。

(2)児童生徒観

本クラスの児童を5、6年と持ち上がり担任をしている。そのため海外での私の体験や経験を何度か話したが、どれも興味をもって聞いたり質問したりと、外国について関心があるように思う。また5年のときには、青年海外協力隊としてアフリカへ派遣された友人の写真を使い道徳の授業を行った。アフリカの子供たちと自分たちの違いだけでなく同じところがあることにも気づくことをめあてとして設定した。めあてに達している児童もいたが、「日本に生まれてよかった」「助けてあげたい」という感想をもった児童もいた。今回は社会科として、国際化社会の中の日本としての役割や、援助や支援といったものでなく協力しているという関係に気付かせたい。

(3)指導観

本単元では、「世界の中の日本～ザンビアを通して考えよう～」と課題を設定し学習を始める。子供たちの中に海外経験がある子は少ない。そのためまずは今の自分のものさしや視点でザンビアについて考えさせることで実際とのギャップを生まれ、学習に関心をもたせてすすめていく。また今回の学習はザンビアを中心に考えていくことになるが、ザンビアだけではないことや世界の出来事と捉えさせつつも自分たちにも関係があるというつながりを意識して指導していきたい。

4 評価規準

観点	社会的事象へ ぼ関心・意欲・ 態度	社会的な思考力・判断力・表現力	観察・資料活用 の技能	社会的事象についての 知識・理解
評価 規準	ザンビアで起 きている問題 の解決に向け て取り組んで いる人々の活 動に関心をもち、意欲的に 調べようとして いる。	ザンビアにおける問題の現状につ いて学習問題を設定し、表現して いる。 ・ザンビアで起きている問題とその 解決のために行われている活動と を結びつけて考え、安心して暮ら せる社会の実現に向けて大切な ことを自分なりに表現している。	ザンビアにおけ る問題の現状や それらを解決す る国際協力の事 例について、写 真や映像などの 資料から調べま とめている。	・世界の平和や環境、 人々の暮らしがより豊か になるために人々が協 力して活動していること や、国際社会で日本が 果たしている役割、今後 の課題について理解し ている。
評価 方法	学習の様子 ワークシート	ワークシート	ワークシート	学習の様子 ワークシート

5 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	世界の人困 っていること ってどんな こと？	文字が読めない体験など を通して世界にある諸問 題に関して知ることができる。	・「世界がもし100人の村だったら」 の絵本をもとに文字が読めないことや 食料が足りない状態の大変さを実感す る。 ・世界にはほかにどのような諸問題が あるのか関心をもつ。
2	ザンビア ってどん んな国？	ザンビアの国の様子を知 ることができる。ザンビ アにはどんな問題がある のか知ることができる。	・ザンビアについて知る。 ・ザンビアの写真から町の様子を知り、 おもしろさや問題とを感じる場面を挙 げ、どんな問題が隠れているのか考え る。
3	誰がザン ビアの問 題を解決 しよう としてい るのだら う。	国際連合やユニセフの活 動や当該国だけでなく世 界中が協力していること を知る。	・ザンビアの問題に対してどんな人 が解決しようとしているのか想像す る。 ・国際連合やユニセフの活動に関し て知る。
4		青年海外協力隊や NPO 団体、企業で働く人の国 際協力の活動や思いにつ いて知ることができる。	・日本人はザンビアの問題に関わっ ているのか予想する。 ・JICA の資金協力や青年海外協力隊、 NPO 団体の活動の様子を知る。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

5	どうしてザンビアにいる日本人はザンビアのために頑張っているのだろう。	国際協力の必要性や持続可能な社会を目指すことの重要性をつかむことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうして日本人がザンビアのために活動をしているのか予想する。 ・ 青年海外協力隊や NPO 団体、企業で働く人国際協力への思いや、丸森町プロジェクトの村での歓迎の様子のビデオや、ザンビアの対日輸出グラフなどから国際協力の必要性を考える。
6	私たちにできることはなんだろう。	SDGsの日本の目標達成状況の資料から日本の課題を読み取り、自分には何ができるか考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsを知り、日本の達成状況を予想する。 ・ 日本の課題を知る。 ・ 自分に何ができるか考える。
7		元青年海外協力隊の方の話を聞き、より国際協力への関心を高めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元青年海外協力隊の方の話を聞き、見学を通して世界の問題を深く知る。 ・ 学習のまとめをする。

6 授業事例の紹介

小単元名【 どうしてザンビアにいる日本人はザンビアのために頑張っているのだろう】

(1) 指導案

(ア)実施日時 12月6日(木)第5限

(イ)実施会場 東村山市立東萩山小学校 6年3組教室

(ウ)本時の目標

国際協力の必要性や持続可能な社会を目指すことの重要性をつかむことができる。

(エ)指導のポイント

前時までもっているであろう「助けてあげている」「ザンビアは貧しくて、日本は裕福だから」という援助のイメージを資料等から協力関係にあることをつかめるようにする。

写真、映像、インターネットなど様々な情報を活用し自分の考えをまとめられるようにする。

(オ) 本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
5分	1 前時の復習をすると共に、本時の課題をつかむ。	・なぜ多くの日本人がザンビアの問題を解決しようとしていたのか、予想する。	一斉		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> どうして日本人はザンビアの人を助けているのだろうか。 </div>				
15分	2 資料を使って自分の考えをもつ	・グループに分かれて、写真や映像・インターネットの情報から課題に対して自分たちの考えをもつ。	グループ	・様々な情報から自分の考えをもつ経験が少ないため、資料の使い方の説明をする。 ・それぞれのグループにヒントカードを用意する。	写真や映像などの資料から調べまとめている。(ワークシート)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ① 私たちにとって必要な携帯電話やテレビの材料はザンビアから輸出されているから、<u>ザンビアの国も大切にしたい。</u> ・ザンビアの対日輸出グラフ ・携帯電話に使われている金属（インターネットの記事） </div>				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ② <u>丸森町の人もザンビアからの研修生を受け入れることで、新たな発見をしたり町の人も国際協力をしたりすることができる。</u> ・丸森町の広報として出されている「月刊丸森とザンビア第6号（丸森の人の声）」 ・丸森町プロジェクトの説明 </div>				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ③ <u>人と人とのつながりが国と国のつながりになっている。</u> ・丸森町プロジェクトを行っているザンビアの村での歓迎の様子 ・丸森町の広報として出されている「月刊丸森とザンビア第28号（ザンビアの研修生の声）」 ・丸森町プロジェクトの説明 </div>				
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ④ <u>人のやりがいになっている。</u> ・ザンビアで国際協力を行っている日本人の声（映像と資料） </div>				
15分	3 発表する。	自分たちのグループの資料とそれによって考えたことを発表する。	一斉	・他の児童も見えるよう、拡大した資料や映像を用意する。	

10分	4 学習をまとめ。	<p>自分たち以外のグループの発表も聞き、改めて課題に関して自分の考えをもつ。</p> <p>・国際協力という言葉を知る。</p> <p>学習感想を書く。</p>	<p>個人 全体</p> <p>一斉</p> <p>個人</p>	<p>・予想として出てきた言葉などを使い、「かわいそうだから日本はザンビアを助けているのか」などの補助発問をする。</p> <p>・「助けているのか」と問い、一方的である「助ける」という言葉ではなく協力している関係に気付かせる。</p> <p>・ザンビアと日本だけの関係ではなく、他の国とも同じような関係を築いていることを伝える。</p>	<p>〔知〕世界の問題のために人々が協力して活動していることや、国際社会で日本が果たしている役割について理解することができる。(ワークシート・発言)</p>
-----	-----------	---	--------------------------------------	---	--

(2) 授業の振り返り

4種類の資料を提示することで、ねらいに対して様々な方向から迫ることができた。また、一つの資料に対して2～3つの事柄を用意したことで、資料を関連付けて考えさせることができた。みんなが同じ資料ではなく、それぞれのグループが違った資料をもとに考えたり、映像を使った資料もあったりしたことで子供たちは意欲的に取り組んでいた。また、それぞれの資料にヒントカードを用意することで、子供たちも安心して取り組むことができたように思う。

一方で、「活動③発表をする」の場面では、他のグループの資料について把握できないままその資料から分かったことを聞く児童が多くなってしまった。資料が多かったことで共有する時間が短くなってしまったことが考えられる。資料を共有する場面の再考が必要である。

(3) 使用教材(前時間ワークシートあり)

<第1時限>

・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら(開発教育協会)

<第2時限>

・フォトランゲージ用写真(ザンビアが抱える問題点が写っているもの、人々が笑顔で写っている写真)

<第3時限>

・ユニセフ募金 子どもチラシ(日本ユニセフ協会)

<第4時限>

・ザンビアで国際協力を行っている方の顔写真・活動写真

・活動内容を紹介するインタビュー映像

・病院の医療機器に貼っていた「people from Japan」のステッカーの写真

<第5時限>

・ザンビアの対日輸出グラフ

・コバルトに関して説明している記事

・「月刊丸森とザンビア」6号(研修生を受け入れた日本の方のインタビュー記事)

・「月刊丸森とザンビア」28号(丸森町で研修を行ったザンビアの方のインタビュー記事)

・ザンビアで教員を歓迎してくれた村人の様子の映像

・丸森町で研修生と日本人が交流している様子の写真

・ザンビアで活動する日本人のやりがいについての記事(動画から文字起こしをして作成した文章)

・ザンビアで活動する日本人がやりがいについて語る動画

<第6時限>

・SDGsのアイコン

(4) 参考資料等

在ザンビア日本大使館 HP

<https://www.zm.emb-japan.go.jp/ja/yomoyama/2011.07.25.html>

宮城県丸森町 HP(月刊丸森とザンビア)

<http://www.town.marumori.miyagi.jp/machisen/kouya-mati/zambia/zam2016.html>

外務省 HP

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/effort/index.html>

ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら(開発教育協会)

7 単元をととした児童生徒の反応/変容

- ・ザンビアを先生が行った国として身近に感じたようで、「行ってみたいになった」と話してくれる児童が多くなった。
- ・ザンビアや周辺のアフリカの国について自主的に調べ学習をした児童もいた。
- ・将来は、貧困など世界の問題を解決できる人になりたいと夢をもった児童がいた。
- ・学習中に SDGsに触れた後に、いつも通っている習い事先の SDGs関連のポスターに気付いたり、家に SDGsの資料があったと教室に持ってきてくれたりした。それまで何とも思わず通り過ぎていたことに、学習を通して触れただけで目につくようになったのだと考える。意図して触れることはとても大切だと感じた。
- ・家庭で今単元の授業の様子を話した児童がおり、保護者にも授業の様子が伝わった。また、ザンビア関連の記事について私に教えてくれた保護者もおり、子供たちだけでなく、保護者の方も関心をもってくれたように思う。

8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善

<成果>

- ・子供たちは、遠いザンビアのことに強く関心をもって授業に取り組むことができた。これら7点を、単元を通して、毎授業で自分のルールとして意識して行ったことも成果の一つだと考える。

①ザンビアの写真を提示する ②私が写っているものを選ぶ ③ザンビアで研修をした私が伝えたことを明確にしておくこと ④ギャップを一ヶ所入れる ⑤想像・予想させる

⑥授業を終えた子供たちの様子を想像する ⑦ザンビアの服を着て授業を行う

・

<課題>

- ・自分が体験して感じた思いを中心に授業を計画したことで、他の先生方が同じように授業実践するには難しくなってしまったように思う。

9 教師海外研修に参加して

海外研修では様々な人に出会うことができた。小学校で現地の子供に教えていた方、教員養成校で教えていた方、ボランティアなど現地で活動する人を支える方、プロジェクトとして他の団体と協力して活動している方、ビジネスとして働いている方・・・ それぞれに国際協力に関して思いをもって活動されていた。そのような方々との出会いを通して、私も社会人として世界へ貢献していきたいという意欲がともわいた。そして自分にはどんな国際協力ができるのかと考えた。日本の子供たちに世界のことを伝える、考えさせることで国際協力を行っていききたいと思う。実際に自分が世界へ出て活動すること、世界で活躍している人を子供たちとつなげること、自分が国際理解教育や開発教育について学び授業に生かすことなど方法はたくさんある。どの方法を選ぶかはこれから考えていくことになるが、どんな方法にせよ私はこれからも自分ができる国際協力を行っていききたい。旅行が好きで、いつかアフリカにも思っていたが、教師海外研修では旅行では得られない体験、経験ができた。また何よりも、考え続けた2週間だった。今回の経験を自分だけのものにするのではなく、子供たちや校内の同僚にも還元していきたい。